

有明海・八代海等総合調査評価委員会
水産資源再生方策検討作業小委員会(第2回)
海域環境再生方策検討作業小委員会(第2回)

有用二枚貝のうち、アサリ、ハマグリ of 取組

平成31年1月23日

熊本県

広域的なアサリ母貝集団ネットワークの形成に関する 検討

浮遊幼生の移動ルート の 解明

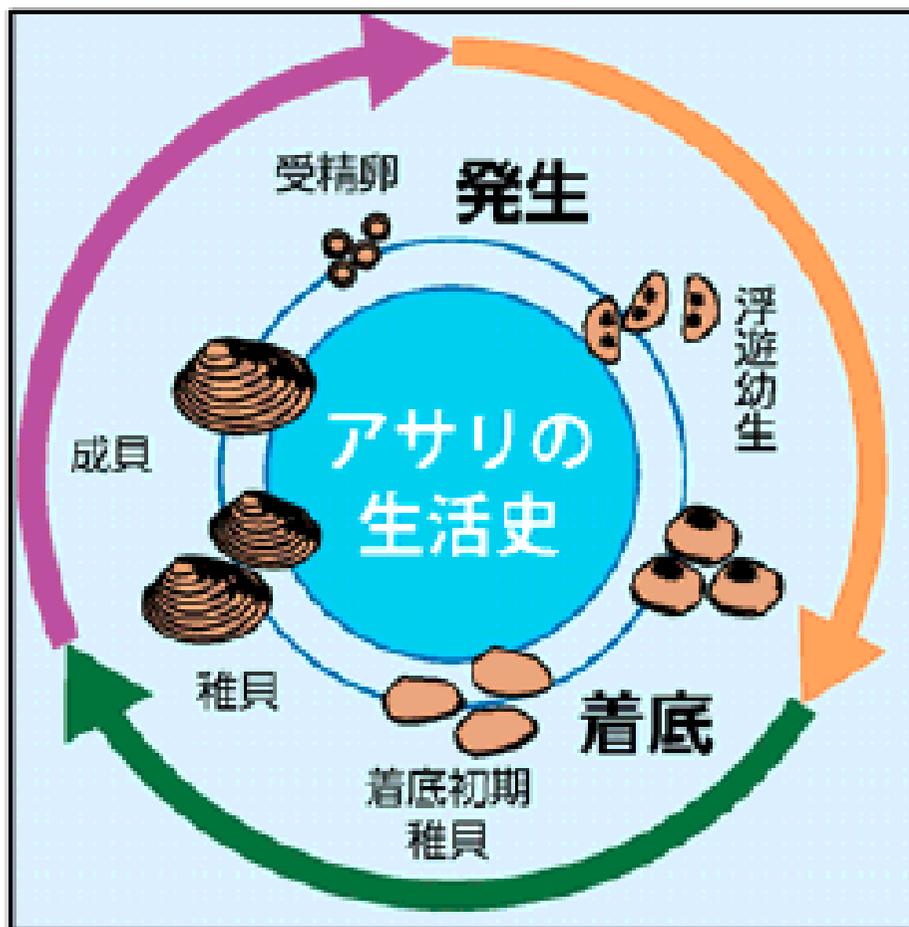
網袋によるアサリ稚貝の着底促進効果等の取組

アサリ母貝団地形成試験

ハマグリ母貝保護手法ごとの保護効果の検討

浮遊幼生の移動ルートの解明

有明海全域において、国と有明4県が協調して、浮遊幼生調査と着底稚貝調査を実施→浮遊幼生シミュレーションモデルを構築



(アサリの生活史)

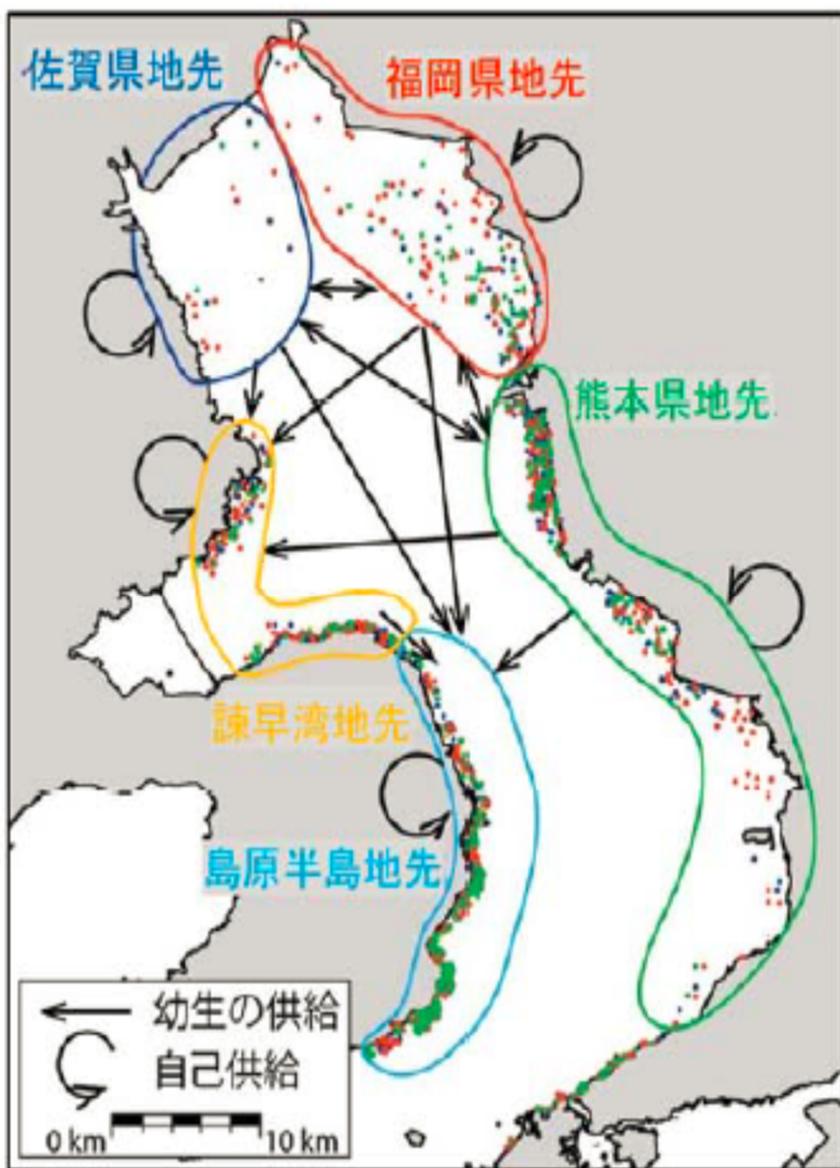


(浮遊幼生調査 (県))



(試料分析等 (国))

【有明海特産魚介類生息環境調査委託事業】



(アサリの浮遊幼生の供給・着底関係の推定)

〔例〕 ● 点は福岡県地先から各県地先
 ● 点は熊本県沖から各県地先へ
 幼生が供給されることを示します。〕

浮遊幼生シミュレーションモデルにより、広域的な浮遊幼生供給ネットワークを推定

各地先間
 の浮遊幼生供給関係を把握
 【例：熊本県 福岡県】

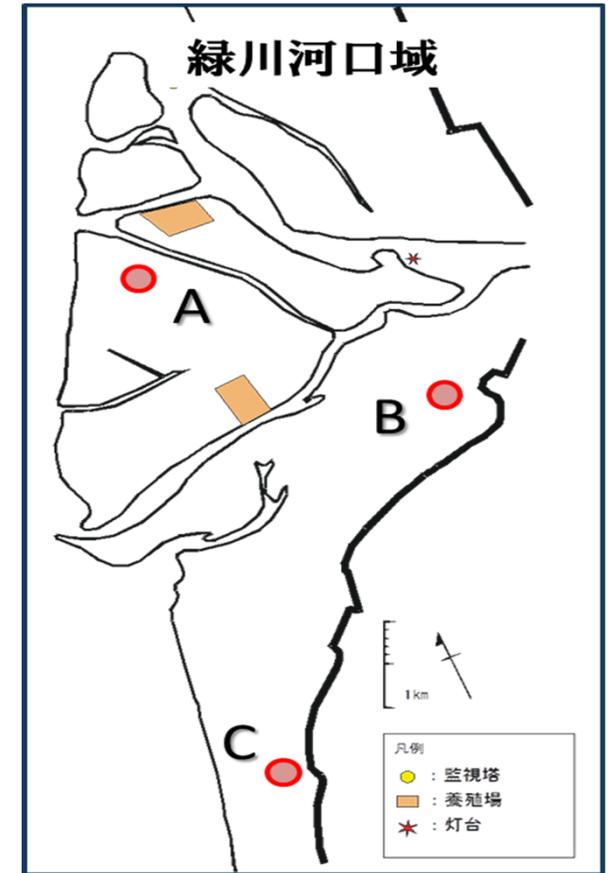
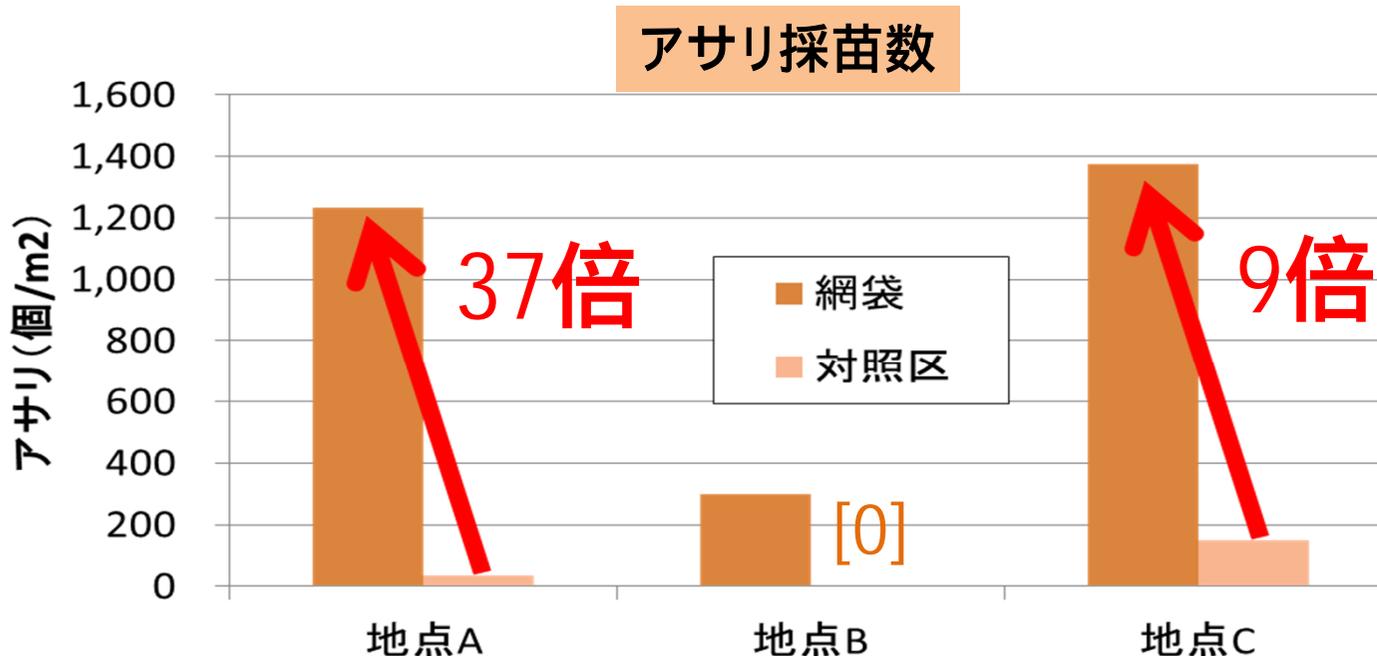
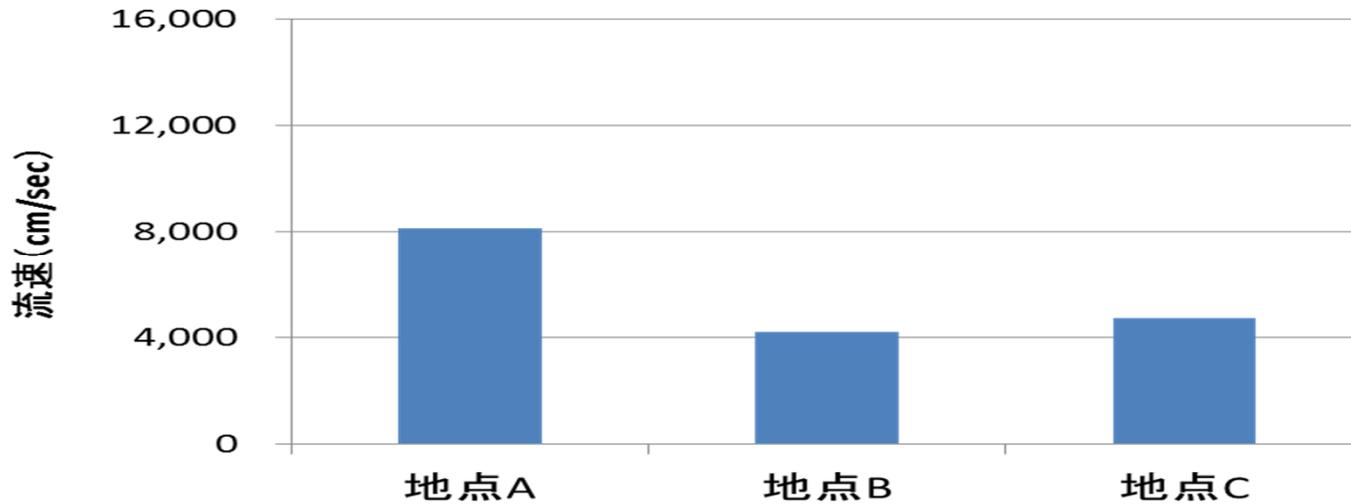
地先内の
 浮遊幼生供給関係を把握
 【例：熊本県 熊本県】



有明海各地先で母貝場造成の取組が重要

網袋によるアサリ稚貝の着底促進効果等の取組

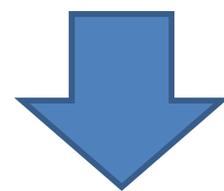
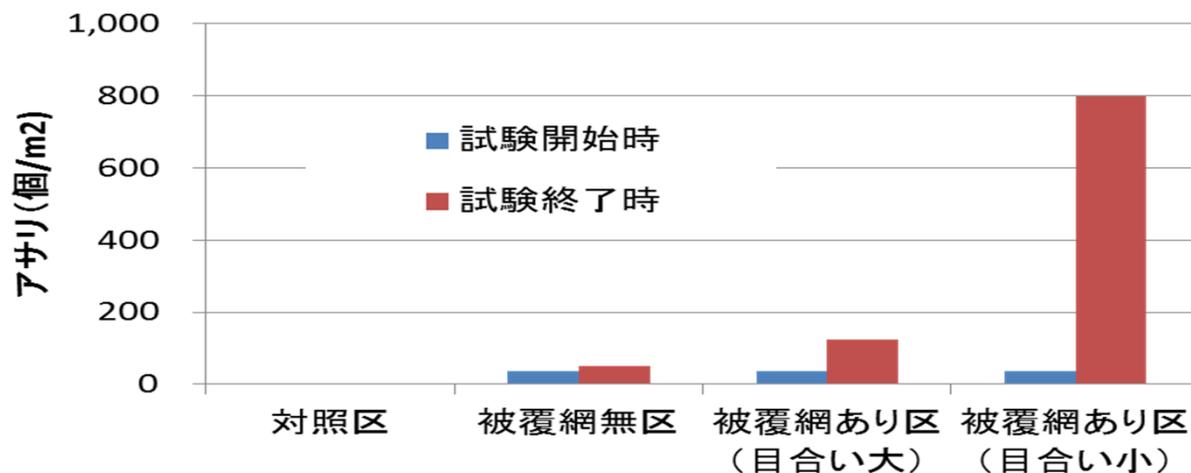
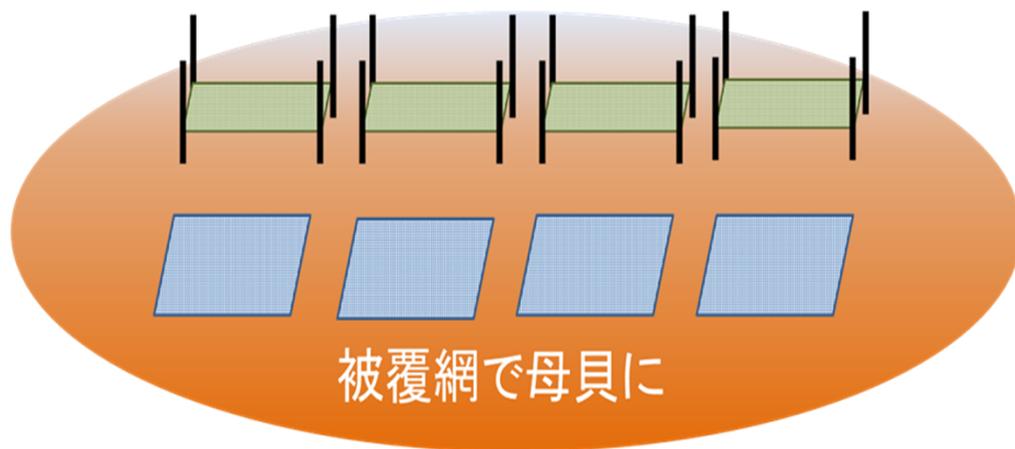
網袋を利用したアサリ天然種苗の効率的な採苗方法検討



地点C:
もっとも多く採苗
地点A:
対照区に比べ37倍

網袋によるアサリ稚貝の着底促進効果等の取組 被覆網を用いたアサリ稚貝の保護法の検討

ノリひびを利用した波浪対策試験



目合小(2cm角目)被覆網が最も保護効果が高い

アサリ母貝団地形成試験

〔実施内容〕

保護区設置

- ・ 緑川河口域のアサリ漁場の一部を保護区
- ・ 食害生物駆除、耕うん、被覆網設置、稚貝移植等を実施

〔成果〕

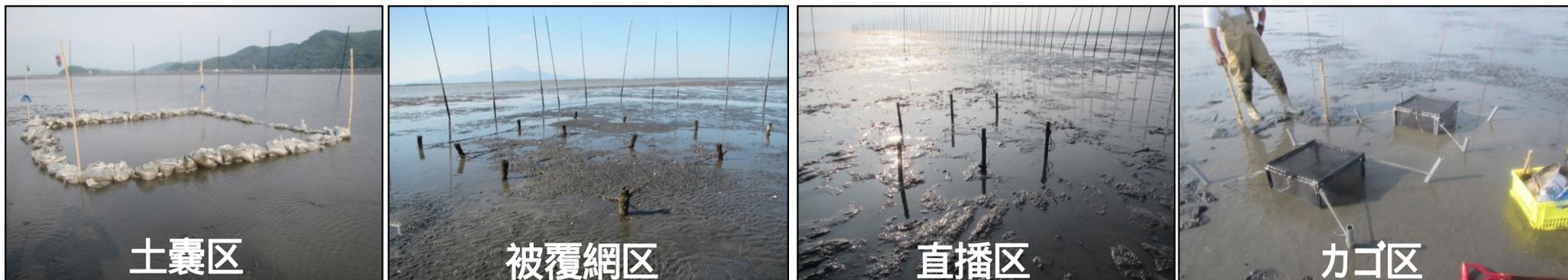
保護区設置

- ・ 緑川河口域の3ヶ所で漁業者による保護区化（28,000m²）を実施
- ・ 保護区において効果を確認
（H29.7時点で、対照区と比べ、最大2.9倍の保護を確認）



ハマグリ母貝保護手法ごとの保護効果の検討

保護手法の検討



保護対策	保護効果 (残存率)	管理頻度, 労力	部材費 (m ² あたり)
土嚢	48%	1回/月, 大	605円
被覆網	<u>52%</u>	<u>1回/月, 中</u>	<u>184円</u>
直播	35%	無, 無	0円
カゴ	50%	1回/月, 小	56,652円

移動制限
but 管理労力大

移動制限

部材費高額

結論：被覆網による夏季保護 & 冬季漁獲の有効性が示唆

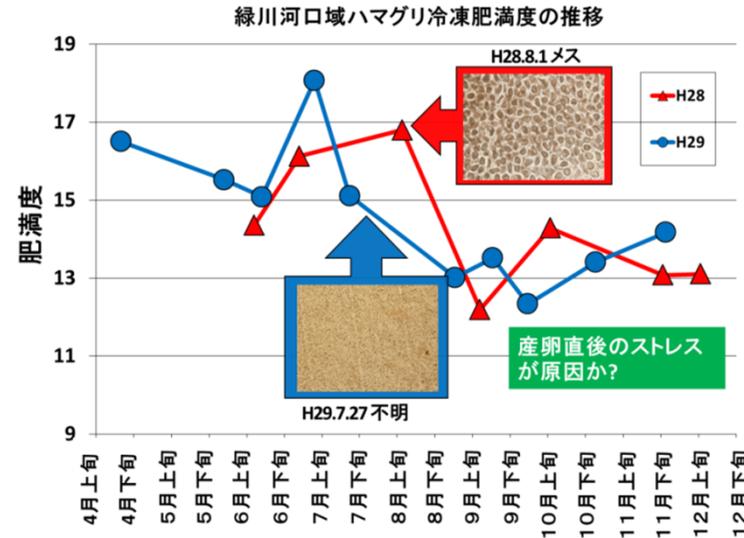
ハマグリ母貝保護手法ごとの保護効果の検討



移植時期の選定

産卵直後の移植 → 避ける

産卵期が年によりズレ
→ 産卵期の把握が重要



保護区活用計画

現在：夏季に被覆網区へ移植 → 翌年2～3月に漁獲

↳ 殻長34mm程度 1回産卵

理想：夏季に被覆網区へ移植 → 翌々年2～3月に漁獲

↳ 殻長34mm程度及び殻長40～50mm程度 2回産卵

